

夫と別居後、ひとり暮らしを続ける 高齢女性への支援を考える

●事例提出者

Aさん (居宅介護支援事業所・
社会福祉士)

A

●クライアントの状況

Bさん・女性・87歳

B

◆提出理由

クライアントは87歳の女性。82歳のとき、夫と同居していた家を飛び出し、自分で建てたアパートの一室でひとり暮らしをしている。日常生活を娘たちに支援してもらっているが、一方的に彼女たちを責めることがあり、娘たちは本人を怒らせないようにと腫れ物に触るように接している。

ケアマネジャーとしては、高齢となった本人が本当に信頼できる人を見つけられないまま残りの人生を過ごしていいのかが、非常に気になっている。本人と娘たちが真剣に向き合うために、ケアマネジャーとしてどんな支援をしていけばいいのかヒントをいただければと思い、提出した。

◆事例の概要

82歳のときに夫に首を絞められて家を飛び出し、その後は娘や息子宅を転々とする。娘たちが夫とグルになって自分の財産を狙っているとの被

害妄想があり、些細なことで娘たちと口論になり、本人のほうから世話になっている家を飛び出していくので、一カ所に落ち着いて生活できない状況にあった。85歳のときに自分でアパートを建て、その一室を自宅として暮らしはじめ、精神的にも一時安定する。しかし、その後も住み込みで介護していた三女を泥棒扱いして三女が出て行ったことから、またイライラするようになった。現在は、近くに住んでいる長男の嫁と次女が交代で介護しているが、本人の言動や猜疑心の強い発言により強いストレスを感じている。

◆生活歴

地元にて出生。尋常小学校卒業。7歳のときに両親が病死、弟は戦死。小学校卒業後は女中をしていた。18歳のときに紡績工場に勤務。23歳で結婚。24歳で夫と豆腐店を開業。一男三女に恵まれる。60歳まで働き、豆腐店を閉める。その後、清掃員として63歳まで銀行に勤務する。

◆家族状況

長女、長男、次女、三女。長女は県外にて結婚。他の子どもは同市内に在住。近隣に長男夫婦、次女夫婦が住んでいる。別居している夫は三女が面倒を見ている(本人はそのことを知らない)。

◆病歴等

平成16年10月 自宅近くで転倒。左腕骨折。
平成17年9月 大腸がん発見→10月手術施行

◆自立度

- 要介護 3
- 障害高齢者の日常生活自立度 A1
- 認知症高齢者の日常生活自立度 IIa

◆現在利用しているサービス

- デイサービス：月～土
- 訪問介護：日曜日（夕方 1 時間）
- 宅配弁当：月～土
- 長男嫁&次女：交代で掃除・洗濯、病院受診の付き添い、外出の付き添いなどを行っている

◆経済状況

国民年金受給。両親から受け継いだ本人所有のアパートや土地が多数あり、かなり裕福である。

◆課題分析（アセスメント）概要

- 健康状態：平成17年に大腸がんの手術を行ってからでは内科的には問題ない。
- ADL：室内は時々壁などを伝う程度で歩行可能。着替えや排泄、食事など、ほとんど自立している。外出時には一本杖を使用している。食事はここ数年間は調理をしたことがなく、娘や嫁が運んでくる食事を食べていた。しかし、3カ月前より娘たちの世話になるのをいやがり、夕飯は宅配弁当を取り寄せて食べている。
- IADL：薬は寝る前のみ服用。嫁や次女が見守って飲ませている。清掃・洗濯は数年間していない。買い物は嫁と一緒に出かけこともある。
- コミュニケーション能力：だいたいことは自分で表現でき、意思疎通は可能である。
- 社会とのかかわり：生まれ育った地区で生活してきた。地域住民の関わりは比較的濃厚である。元気な頃は地域活動も行っていたが、高齢となり、特に夫と別居してからはかかわりは薄れてきている。4年前から利用しているデイサービスでの他の利用者や職員との交流を楽しみにしている。
- 口腔衛生：入れ歯だが問題はなく、定期的に歯科にも通院している。食事は普通食を摂取。
- 問題行動：デイサービスなど外部ではほとんど

みられないが、自宅では些細なことで怒り出したり、「娘がお金を取った」と訴えたりする。ほとんど毎日、急に涙ぐんだり、夫にされた仕打ちを何度も何度も話し続けたりする。聞きつけている娘、嫁にはストレスがある。怒り出すと深夜でも長男宅に来てチャイムを鳴らしたり、タクシーで娘宅に押しかけて「泥棒！」と言いながら杖でドアを叩くなどの行動がある。

- 居住環境：3階建ての新築アパートの1階にて単身生活。室内は2DKのバリアフリー設計で、段差なくトイレや浴室には手すりがある。

◆支援経過

平成18年12月～19年9月 前ケアマネジャーからケースを引き継ぐ。信頼関係ができるまで時間がかかる。ひたすら本人宅を訪問し、同じアパートに住んで身の回りの世話をしている三女や長男の嫁も含め雑談を交わす。長男の嫁からは訪問の後に家での様子などの報告を受け、本人に振り回されているなどの相談も受けた。

19年9月 本人より「寝泊まりしていた娘(三女)が出て行った。弁当を取りたい」と相談を受け、訪問。自宅でお金がなくなったのを娘のせいにして責めたため、娘が出て行ったと判明。初めてケアマネに夫への恨みつらみや娘たちへの敵意をむき出しにする。宅配弁当を紹介する。

19年11月 長男の嫁より電話にて相談を受ける。デイサービス帰宅後にかなりの興奮状態が続いている。被害妄想が強くなっている、受診させたいと相談を受ける。

19年12月 「方言の話せる先生の所に相談に行こう」と本人を説得。H精神科病院へ付き添って受診させる。長男嫁が同行。本人は主治医と意気投合し、「楽しかった。また行きたい」と話す。この頃よりデイサービスでもケアマネジャーを呼び出し、夫への恨みや娘への恨みを繰り返すようになる。黙って傾聴する日々が続く。

20年1月 2回目の受診を長男嫁とともに行う。担当医より、「高齢でもあり、薬などで治せ

る種類ではない。本人の頑張ってきた気持ちを家族が受け入れるしかない」と言われ、家族は「受診しても何も変わらない」と残念がり、その後の受診は打ち切りとなった。

20年4月 介護認定が更新され要介護2から要介護3となる。長男嫁が来所し、ケアマネジャーに日頃の鬱憤をぶちまけ号泣する。デイサービスに行かない曜日に長男嫁が一对一で対応し、同じ話を繰り返したり、過去の恨みつらみや娘たちへの被害的な感情を受けとめるのに精神的負担を感じているとの訴えを受け、デイサービスを週5回に増やす。

20年6月 長男嫁の大変さを理解し、近隣に住む次女と一緒にしかかわるようになったと報告を受ける。次女をまじえて面接を行う。本人が次女を片時も離さず、目を離すと「自分を疎んじている」と訴え、嫌みや暴言を吐かれると次女は話す。

20年8月 本人が自宅にて転倒。圧迫骨折により腰痛が悪化。デイサービスを2週間休む。

20年9月 長男嫁、次女の話聞く。「ばあちゃんは、満たしても満たしても満足することなく、

もつとつと見返りを求める。いくら家族といえども、満たしてあげられないのでくたくたに疲れる。だからといって、逆らったり否定したらどんな仕返しがあるかわからない。それが怖くて全部いいなりになってしまうんです」と泣きながら話していた。話を聞くことしかできなかった。

20年10月 本人の希望で月曜日から土曜日まで、夕飯は高齢者向けの宅配弁当を利用している。日曜日の食事をどうしたらよいかと相談を受け、介護保険でのホームヘルパーの利用を提案する。本人の同意が得られたため、日曜日の夜に1時間以内で一緒に調理を行う身体介護での調理支援が開始された。本人は全身で喜びを表現し、「自分のヘルパー。楽しみにしている」と話す。

20年11月 家族にヘルパー支援について確認する。週に1回ではあるが、ヘルパーが来ると機嫌がよくなり、またヘルパーと作った食事を「おいしい」と言って全量摂取している。次女から「させてみると案外本人にできることがたくさんあると気がついた。これまで先回りして面倒をみすぎていたかもしれない」との発言があった。

ケース検討会

ケースの全体像をつかむ

<見立て編>

野中 ありがとうございます。事例の概要を丁寧の説明していただきました。今の情報に追加して聞きたい点を質問によって補足していきましょう。まずは<見立て>に必要な情報を、聞き手の主観を交えずに聞いていってください。ある程度情報が集まったところで、今後の<手立て>を考えていきましょう。では、質問をお願いします。

身体状況、医療面について

発言 身長、体重はどのくらいあるのですか？

Aさん 146cmで40kgぐらいの小柄な方です。

発言 夫に首を絞められたのと、平成16年の転倒はどちらが先ですか？

Aさん 首を絞められたほうが先です。それで別居をした後で、夫の家に文句を言いに行って転倒した、という時間的な関係です。

発言 途中で要介護3に認定されていますが、何かあったのでしょうか？

Aさん 三女が出て行った後、すごくイライラが続いて、靴も履かずに外に飛び出したりしたことがあったので、認定調査のときに長男のお嫁さんが第7群（問題行動）についての話をたくさんして、それで要介護度が上がったようです。

発言 物盗られ妄想など認知症のような症状がありますが、その点はどのようなのでしょうか？



Aさん たしかに認知症的な症状は出てきていると思います。ただ、精神科の先生はそういう診断はしてられません。受診の件についてちょっと反省しているのは、あらかじめ家族に「外科のように一回で劇的に治るものではなく、長期的な展望に立って根気よく通うことが大事ですよ」と説明すべきだったのですが、そうしなかったために、先生の話に家族ががっかりして継続的な受診につながりませんでした。

野中 これからまた受診すればいいんですよ。精神科の場合、1回の受診で判断するのは難しい場合も多いのです。生活歴に関する情報などを知った上で、1年2年3年と見てきて、ああ、これはアルツハイマーがでてきたな、と判断するわけです。それと、1年前の受診というのは精神科医にとっては「つい最近の話」なんですよ。これからだって全然遅くはありません。

Aさん わかりました。ありがとうございます。

生活歴について

発言 ご本人の身内やきょうだいはいらっしゃらないのですか？

Aさん 弟さんが亡くなってからは天涯孤独だったようです。

野中 おじさんやおばさんは？

Aさん いらしたようですが、若い頃からあまりよい関係ではなかったようです。今はもう亡くなっていますが、財産を狙われてビクビクして暮らしていたとおっしゃっていました。

野中 そうすると、7歳で両親が亡くなってから18歳で紡績工場に行くまでの「おしんの物語」はよくわからないのですね。

Aさん はい。ご本人もおっしゃいません。

野中 そこがわかると、もう少しこの人への理解が深まりそうな気がしますね。

発言 豆腐屋さんを長くしていらしたわけですが、地域とのかかわりは今もあるのですか？

Aさん ご本人もかなり高齢ですので、当時のお客さんというか、つき合いのあった人たちも多くが亡くなっているようです。それと、ご本人が地域のなかでどんなふうに使われていたのかを長男のお嫁さんにお聞きしたことがあるのですが、ちょっと変わり者という見られ方をされていたようです。ただ、非常に働き者で、アパートも土地もあるのだからそんなに働かなくてもいいような気がするのですが、60過ぎまできっちりと働いていらしたようです。

野中 変わり者とはいっても、しっかり仕事はしていたわけですね。若い頃のことを知っている近所の人に話が聞けたら、本人の姿がもう少し具体的にになってきますね。

発言 この方は7歳で両親を亡くしてから、ずっと人に対する不信感を抱きながら生きてきたように感じるのですが、これまで一番安らいで楽しかったという時期はあるのでしょうか？

Aさん 時期ということではないのですが、昔銀行で働いていたときに、朝早く出勤して掃除をしていたら支店長さんにとっても褒められたという話を嬉しそうにしてくれたことはあります。今はデイサービスに行っているときに一番安らいでいるのではないかと思います。

野中 どうしてデイサービスが安らぎの場所だと思うのですか？

Aさん ご本人がいつも「私がデイサービスに行くと、みんなが『美人が来た、美人が来た』と言うのよ」と、とてもうれしそうにおっしゃるのです。あっ、この人は美人って言われたら嬉しいんだな、とわかったので、私も「美人よ」と言ったら案の定すごく喜んで——。あまり美人ではないのですけど（笑）。美人というよりは、小柄な可愛いおばあちゃんというタイプなのですが、いずれにせよチャホヤされるのがたまらなくうれしいようです。

野中 チャホヤされたことがなかった人生でしょうか。

子どもとの関係について

発言 ご本人は4人のお子さんを育てていますが、どんなお母さんだったのでしょうか。

Aさん 次女さんに小さい頃のことをお聞きしたことがあるのですが、しつけにはとても厳しかったそうです。それと、夫婦喧嘩が非常に多かったとおっしゃっていました。

発言 身内の方とはあまりうまくいっていないようですが、うまくいく人とうまくいかない人の違いのようなものはありますか？

Aさん 身内以外の人とはうまくいっています。

発言 お孫さんのかかわりはありますか？

Aさん お孫さんは、近くでは長男のところ3人、次女のところ2人います。みんな高校生以上ですが、本人とはあまりかかわりはありません。同居しているときも、孫の前ではさすがに声を荒げたりすることはなかったそうです。

発言 長男はご本人とはどんなかかわりをしているのですか？

Aさん 長男自身はかかわろうとはしません。

野中 なぜですか？

Aさん どうしてなのかわかりませんが、「あんたたちにまかせるよ」という感じで、全然入ってこられません。

野中 ずるいんじゃないですか？

Aさん そう思います。でも、男性には多いんじゃないでしょうか？（笑）

野中 まあ、そういうやり過ぎ方をしないと、このポジションの人は生き残れないということなのかもしれません。知らぬ存ぜぬが一番、という処世術をとっているのでしょうかね。

発言 ご本人の元を出て行った三女との関係は？

Aさん 三女は喧嘩して出たというより、ご本人から責められて出て行かざるをえなかったようです。精神的にも病んでしまって、心療内科に通うぐらい落ち込んでいるそうです。とてもやさしい、おとなしい女性なのですが、「二度とお母さ

んにはかかわりたくない」と言っておられます。

夫との関係について

発言 ご本人に家を出て行かれた後、ご主人はどうやって生活しているのですか？

Aさん 自宅でひとりで暮らしています。ご本人が出て行った後、要介護認定を受けてヘルパーさんの支援を受けているようです。今は三女が世話をしているようです。

野中 夫の要介護度は？

Aさん 詳しくは聞いていません。

野中 ケアマネの事業所は違うのですか？

Aさん はい。私をご本人にかかわり始めたのはお二人が別居した後でしたので、ご主人のところへは別の事業所が入っています。

発言 夫婦の力関係はどうだったのでしょうか。

Aさん ご本人やご家族の言葉のはしばしから感じるのは、ご本人は財産を持ち、しかも働き者ですから、ご主人は頭が上がらないような関係だったのではないかと思います。ご主人はどちらかというとのんびりした性格で、ご本人のチャキチャキした性格とは食い違ふところもあったようです。ただ、若い頃にご主人が同じ地域に愛人をつくって、そこに通う姿をずっと見ていたことが、ご本人には今も心の傷となって残っていて、いまだにその女の人を恨んでひどい言葉を言ったりしています。もうその人は亡くなっているのですが、「自分で殺したかった」と言われたりします。

野中 その関係はどのくらい続いたのですか？

Aさん 若い頃からかなり長く続いたようです。

野中 ご本人からすると、殺しても殺しきれないような気持ちですね。

Aさん はい。

野中 愛人が亡くなったのはいつですか？

Aさん ハッキリとは聞いていませんが、十数年前だと思います。

野中 70歳くらいまでは生きていたわけですね。

同じ地域の人たちは知っていたのですよね。

Aさん おそらくそうだと思います。

野中 その点はまだ処理されないまま本人の中に残っているわけですね。

Aさん はい。家を飛び出す原因となった夫に首を絞められた一件も、愛人の話を彼女が蒸し返して、カッとなった夫が「うるさい!」と首を絞めたそうです。

発言 自分は財産を持っていて、夫は愛人がいて毎日喧嘩ばかり。離婚しなかったのはどうしてなのでしょう？

Aさん う〜ん。娘さんたちも、今から考えれば離婚させておけばよかったと思うようです。

野中 娘たちがそう思うような状況なのになかったのは、やはり理由があるんですよね。

Aさん そうなのだと思います。この歳になっても愛人のことについて恨みつらみを言うというのは、よほどご主人のことが好きだったのかな、だから裏切られたという思いが強いのかな、と映ることもあります。

野中 憎いなら離れろ、という単純な話ではないのでしょうかね。まだ夫のことをどこかで愛しているのかもしれませんがね。いやになっちゃいますね、男と女の仲というのは(笑)。

Aさん ということは、もう一回、一緒に暮らそうという気持ちもあるのでしょうか？

野中 そのあたりは本人に聞いてみたらどうですか？ まだ旦那と一緒に暮らしたいのか、死んだら旦那と一緒に墓に入るのか、と。もう87歳ですから、リビングウィルの準備はしていても全然おかしくないですからね。まあ、なかなか本音は言わないでしょうけれど。

本人の好み、将来の意向について

発言 ご本人には何か趣味などはありますか？

Aさん 趣味はまったくありません。強いて言えばお金を貯めることでしょうか(笑)。20年くら

い前に偉い弁護士さんに頼んで財産目録を作ったという話は何度もお聞きしたことがあります。

野中 それはなんのために作っているのですか？

Aさん 他の人に盗られないためだそうです。

野中 目録はどこかに保管されているのですか？

Aさん 長男のお嫁さんに尋ねたことがあるのですが、家族は誰も弁護士に会ったこともなく、目録がどこにあるのかも知らないそうです。

野中 真相は今のところ藪の中ですね。

Aさん そうです。

発言 ご本人は自分の財産をどのようにしたいと思っておられるのですか？

Aさん 「子どもなんかには絶対譲らない。譲るぐらいだったら、他人に売る」と言っています。

野中 遺産相続に関する公証人役場での書類づくりなどはしているのですか？

Aさん そのあたりはわかりません。

発言 85歳でアパートを建てたと聞いてとてもビックリしたのですが、そのときは子どもたちはかかわっていないのですか？

Aさん ご本人がひとりでやりました。以前から懇意にしている不動産屋さんがいて、ご本人の意向通りに手配をしてアパートを建てたようです。私がかかわり始めたときはちょうど建設中で、「あんたも一部屋借りてよ」と言われました(笑)。

野中 不動産屋のことは信用しているのですか？

Aさん はい、しています。

野中 何歳ぐらいの人ですか？

Aさん 会ったことがないのでわかりません。

野中 ちょっと知りたいですね。インフォーマルな資源として有力な人ですからね。

Aさん なるほど。早速調べてみます。

発言 ご本人が望んでいるのはどんな生活なのでしょう？

Aさん にぎやかなのが好きな方なので、本当は人にいつも訪ねて来てほしいと思っています。みんなに囲まれたい、それもお金が目当てではなく、「本当にあなたが好きなのよ」と言ってくれ

る人を求めているような気がします。

具体的な対応策を考える

<手立て編>

野中 では、そろそろプランニングに入りましょうか。82歳のときに家を飛び出して、子どもたちの家を転々とし、85歳でアパートを建てたという、ある意味非常にパワーのある女性です。彼女の今後の生活を支援するために、どんな手立てが考えられるか、できるだけ具体的なアイデアを出してってください。

発言 大腸がんの手術をされていますので、医療面の状況を確認したいと思いました。

野中 再発の可能性もありますからね。主治医に一度確認しておきたいですね。

Aさん はい。

発言 同じく医療面で、精神科を再び受診する。

野中 大事な点ですね。話を聞いているとかなりクリアに意思疎通できるようですので、本当に認知症なのかどうかわからないところもあります。ふだんの生活状況を理解してもらうためにも、一度精神科医をまじえたケア会議をしてもいいかもしれません。

Aさん わかりました。

発言 夫と別居したままでいいのでしょうか。

野中 具体的には何をしますか？

発言 まずは夫のADLの状態や夫の意向を確認する――。

野中 どうやって確認しますか？

発言 三女が夫の面倒をみているということなので、彼女にアプローチする方法もあるのではないのでしょうか。

野中 それは可能ですか？

Aさん きょうだい同士や私と会うぶんには三女も大丈夫だと思います。私は夫の担当ケアマネに連絡をとってみたいと思います。

野中 夫婦の担当者同士ですからね。

発言 かつては地域活動もされていたということ

なので、たとえば老人会の活動に参加することなどは考えられないでしょうか。

Aさん う～ん、誰かが一緒なら行くかもしれませんが、一人では行かないと思います。

野中 本人の性格や周囲との関係性などを考えて、得策かどうかの見極めが必要そうですね。

発言 ご本人はにぎやかな生活がお好きなようなので、88歳の米寿の誕生日を盛大に祝うというのはどうでしょう。

野中 なるほど。誕生日はいつですか？

Aさん 来月です。

野中 もうすぐですね。誰を呼びましょうか？

発言 できればお子さんたち全員がいいとは思いますが、これまでの関係性もあるので、やはりご本人の意向をうかがうのが先だと思います。

野中 修羅場になってしまったら、誕生日どころじゃないですからね（笑）。今のところ呼んでも大丈夫そうなのは、長男夫婦と次女夫婦、そしてそれぞれの孫というところでしょうかね。

発言 お孫さんたちには誕生日の企画をしていたらいいのではないでしょうか。

野中 孫とは関係は悪くないようですから、いいかもしれませんね。いかがですか、Aさん。

Aさん はい、とてもよいアイデアだと思います。今日の検討会の前から私が考えていたのは、昔取った杵柄で豆腐づくりを通しての人とのふれあいができないかな、ということでした。

発言 今通っているデイサービスで活かすことはできないのでしょうか。

Aさん 私もそれを考えていたんです。長男のお嫁さんも、「それだったらおばあちゃんも喜ぶんじゃないかしら」とおっしゃっていました。

野中 道具は大丈夫ですか？

Aさん ミキサーで簡単に作れるものがあるので大丈夫です。

野中 では、デイサービスで豆腐教室の先生になる、というプランも入れておきましょう。

発言 今はヘルパーさんと一緒に料理をしていら

っしゃいますが、ゆくゆくはお一人でつくって、ふだん面倒をみてもらっている娘さんたちに手料理をふるまう、というのはどうでしょう。

野中 食事を一緒にとるとするのは、なんといいても人間関係に潤いをもたらしますからね。にぎやかなことが好きな人ですから、誕生会とは別に食事会を考えてもいいかもしれませんね。

Aさん はい。もともとは大家族のお母さんだったので、きっとみんなで食べた思い出の味もあると思います。ご本人の寂しさの根底には、子どもたちに受け入れてもらっているという実感の乏しさのようなものがあると思うので、料理というかたちで子どもたちを喜ばすことができれば、自信回復にもつながるのではないかと思います。

野中 一つひとつのプランに、そうやってアセスメントにもとづいた意味づけができるのは、とても大切なことです。

Aさん ありがとうございます。

発言 急に夢のない話を言ってなんですが、かな

りの財産をお持ちの方なので、遺言をしっかり作ることも大事なのではないでしょうか。

野中 とても大切ですね。この事例の中間目標といってもいいのではないのでしょうか？

Aさん はい。財産目録の話などからもわかるように、ご本人は弁護士の仕事をよくご存じですので、成年後見などで福祉分野になじみのある弁護士さんにかかわっていただければ、よい関係がしてくれるかもしれません。遺言を作っていく過程でご自分の気持ちの整理もできると思いますし、ご本人にふさわしい支援だと思います。

野中 皆さんから出していただいたプランをまとめると、十文字表のようになりますかね。いかがですか、Aさん？

Aさん どのアイデアも魅力的です。これほど実践の役に立つ事例検討会に出たのは初めてです。明日から早速、このプランを実行に移していきたいと思います。いろいろなご提案をいただき、本当にありがとうございました。

